

支援業務課 NEWS

全国発表会で3名が生産局長賞に輝く

～平成15年度全国優良畜産経営管理技術発表会～

11月7日、東京都内（虎ノ門パストラル）において、中央畜産会・全国肉用牛協会主催による平成15年度全国優良畜産経営管理技術発表会が開催され、全国各地より推薦を受けて最終審査に残った12経営・組織が事例発表を行いました。

本県からは酪農、肉用牛、養豚経営で推薦した3名全員が選抜され、全国発表会に臨みました。

最優秀賞の獲得はならなかったものの経営改善の努力と成果が認められ、これまでにない1県から3名の優秀賞受賞という快挙を成し遂げ、新潟の畜産を全国に大いにPRした1日となりました。

受賞された3名の受賞内容と取り組みは以下のとおりです。

(生産局長賞・中央畜産会長賞受賞)

酪農経営 山之内浩一氏 (広神村)

養豚経営 桜井富佐子氏 (広神村)

(生産局長賞・中央畜産会長賞・全国肉用牛協会会長賞受賞)

肉用牛経営 菅原健一氏 (村上市)

なお、3名は12月18日に開催された県畜産振興協議会主催の優秀畜産表彰において県知事賞等もあわせて受賞されました。

(酪農経営：山之内浩一氏)

山之内氏は酪農2代目として就農し、経産牛40頭規模の酪農経営を行っており、購入粗飼料に依存した経営形態をとっている地域の中にあって、自給飼料基盤（合計9.3ha）の充実を図り、トウモロコシサイレージの通年給与体系を確立しています。また、多雪地域では栽培が難しいアルファルファの栽培にも挑戦し、栽培面積の拡大を図って来ています。さらに、飼養管理面では牛群検定結果を活用した改良や自動給飼料機の導入、牛床・飼槽の改善、連続水槽の設置等によるカウコンフォートの向上を図り、経産牛1頭当たり乳量9,723kgという高能力牛群を整備し、生産性の高い安定した酪農経営を確立しています。

(肉用牛経営：菅原健一氏)

菅原氏は水稲、葉タバコ、大豆栽培に和牛55頭規模の肥育を取り入れた複合経営を行っており、これまで、肥育牛は「村上牛」として出荷してその銘柄化にも大きく貢献して来ました。特に、きめ細かな飼養管理と創意工夫により枝肉格付4等級以上率94.7%（過去4年間平均90.5%）を達成する等優れた技術を有し、牛肉の消費拡大や地産地消の推進にも努めています。また、経営内で生産された堆肥を自ら、水田等の耕種部門で活用して良質米の生産を行うと共に、地域内での利用体系を確立して、環境保全・循環型農業の推進を行い、地域の若手農業者の育成や地域農業の発展に尽力されています。

(養豚経営：桜井富佐子氏)

桜井氏は兄の開始した養豚経営を引き継いで、女性ながらバイタリティを持って種豚60規模の一貫経営を行っています。飼養管理面では基本技術の励行や暑熱・融雪対策等の創意工夫、機械化による省力管理システムの確立等により高い繁殖成績を維持しており、きめ細かい記録・記帳とパソコンを活用したデータ管理により低コストで収益性の高い経営を確立しています。また、平成6年には密閉型堆肥化施設を導入して袋詰め堆肥の販売を行い、有機米栽培農家や畑作農家との連携強化を図っています。さらに、管内の若手畜産農家と連携して地域内でのイベントにも積極的に参画すると共に、子供達からも「名物かあちゃん」として親しまれています。

第43回 農林水産祭参加行事 度全国優良畜産経営管理技術発表会

中央畜産会・(社)全国肉用牛協会 後援 農林水産省



全国発表会・受賞者と地元J A関係者

事例紹介

堆肥散布応援隊の活動

柏崎市・Yes農クラブ

○クラブ員

柏崎刈羽地域の20～30代の若い農業者12名
～「農業」という旗のもとに集結～

○活動内容

- ① えだまめ栽培プロジェクト
- ② 稲わら収集業務請負
- ③ 堆肥散布業務請負
- ④ 各組織との意見交換や検討会・活動発表など

【担い手の掘り起こし】

刈羽農業改良普及センターでは、管内の農業の担い手をリスト化し、把握した後継者の個別訪問を実施してクラブへの加入を勧めました。しかし、何をするのか不明確で成果が上がりなかつたため、新規就農者を交えて稲作現地研修等の活動計画を検討することでクラブへの理解促進を図りました。

【堆肥センターの活用に向けて】

集まりの良くなったクラブ員に稲わら収集、堆肥散布業務を組織として担うよう誘導しました。稲わら収集、堆肥散布業務は、JA、市役所、普及センターとYes農クラブの4者が相互に連携する総合プロジェクト活動として研修や綿密な日程調整等を行いました。

堆肥散布業務はクラブ員の高度な機械操作技術もあり、秋の短期間に40ha（14年度）も散布することができました。このことは、地域からも評価され、Yes農クラブを中心に堆肥散布組織を設立することとなりました。



Yes農クラブのみなさん

【情報機器を有効利用】

クラブ員のパソコンや携帯電話を使った、メーリングリストを開設し、日程調整、連絡体制の構築を実施してきました。メーリングリストは連絡調整のみならず、クラブ員相互の仲間意識の向上にも効果的で、普及センター、Yes農クラブの活動には必要不可欠なものとなりました。

【堆肥散布成功のポイント】

- ① E-mailで全員への連絡網を開設できたメーリングリストで迅速な日程調整と情報共有が可能となった。
- ② 事前研修を徹底した堆肥散布の意義、機械操作、チームの役割を理解
- ③ 各自稲刈りとパッチングしない時期の作業とした
- ④ チームワークと機械操作技術があった：飲み会とクラブ活動で培った抜群のチームワーク



結果：堆肥散布が可能となった



マニュアルブレッダへ慎重に積み込む



堆肥散布作業